

①長命寺過去帳及び長命寺過去帳写

※非公開

- 1 所有者等名称・住所 長命寺 千葉県野田市上花輪1358番地 (04-7122-3463)
- 2 管理者等名称・住所 同上
- 3 種別 有形文化財(歴史資料)
- 4 名称(よみ)及び員数
長命寺過去帳及び長命寺過去帳写
(ちょうめいじかこちょうおよびちょうめいじかこちょううつし) 2点
- 5 所在地 千葉県野田市上花輪1358番地
- 6 物質及び法量
表紙:木 内側:紙(厚紙裏打) 折本
折本片面 縦33cm、横45cm
- 7 現状(写真添付)



過去帳とは、亡くなった人の戒名や俗名、没年月日が記された帳面であり、また亡くなった人の功德や供養を後世に伝えるものでもあります。

長命寺過去帳が作成された時代背景には、江戸時代後期に全国的に起こった天保の飢饉があります。野田ではこの飢饉において食料と医薬を提供する御救いを行い、近隣の村落以外からも御救いを求めて多くの人々が来訪しました。来訪して御救いを受けるも亡くなってしまった方を供養するため、天保9年(1838年)に長命寺過去帳が作成されました。また長命寺過去帳写は明治19年(1886年)に行われた天保の飢饉50回忌相当の法要で作成されたと考えられます。この過去帳写には総数477人が記載されています。

令和5年に野田市の『有形文化財(歴史資料)』に指定されました。

②長命寺歉年賑給中死亡五百有余人墓

- 1 所有者等名称・住所 長命寺 千葉県野田市上花輪1358番地 (04-7122-3463)
- 2 管理者等名称・住所 同上
- 3 種別 有形文化財(歴史資料)
- 4 名称(よみ)及び員数
長命寺歉年賑給中死亡五百有余人墓
(ちょうめいじけんねんしんきゅうちゅうしぼうごひゃくゆうよにんぼ) 1基
指定名称の読みは長命寺及び安心寺ともに由来や伝承はないが、長命寺では「けんねんしんきゅうちゅうしぼうごひゃくゆうよにんぼ」と呼称していたことから上記の読みとする。なお、混同を避けるため、それぞれ文頭に建立地を管理する寺院名を付す。
- 5 所在地 野田市上花輪1361番地
- 6 物質及び法量
石、台座：高さ36cm横82cm奥60cm 墓碑：高さ220cm横36.5cm奥33.5cm
- 7 現状(写真添付)



長命寺歉年賑給中死亡五百有余人墓は、長命寺に建立されている合葬墓で、「飢饉の年に、多数の人に食べ物を施しているうちに死亡した五百人あまりの人々の墓」という意味です。合葬墓が建立された時代背景には、江戸時代後期に全国的に起こった天保の飢饉があります。野田ではこの飢饉において食料と医薬を提供する御救いを行い、近隣の村落以外からも御救いを求めて多くの人々が来訪しました。来訪して御救いを受けるも亡くなってしまった方を

弔うため、天保9年（1838年）に高さ2.2メートルの墓石が建立され、台座部分は明治19年（1886年）に50回忌供養で建立したことが刻まれています。

令和5年に野田市の『有形文化財（歴史資料）』に指定されました。

③安心寺歉年賑給中死亡五百有余人墓

1 所有者等名称・住所 東正寺 千葉県野田市野田29番地 (04-7122-2087)

2 管理者等名称・住所 同上

3 種別 有形文化財(歴史資料)

4 名称及び員数

安心寺歉年賑給中死亡五百有余人墓

(あんしんじけんねんしんきゅうちゅうしぼうごひゃくゆうよにんぼ) 1基

指定名称の読みは長命寺及び安心寺ともに由来や伝承はないが、長命寺では「けんねんしんきゅうちゅうしぼうごひゃくゆうよにんぼ」と呼称していたことから上記の読みとする。なお、混同を避けるため、それぞれ文頭に建立地を管理する寺院名を付す。

5 所在地 千葉県野田市野田41番地

6 物質及び法量

石、台座：高さ 37cm 横 86cm 奥 81cm 墓碑：高さ 216cm 横 37cm 奥 24.5cm

7 現状(写真添付)



安心寺歉年賑給中死亡五百有余人墓は、安心寺に建立されている合葬墓で、「飢饉の年に、多数の人に食べ物を施しているうちに死亡した五百人あまりの人々の墓」という意味です。合葬墓が建立された時代背景には、江戸時代後期に全国的に起こった天保の飢饉があります。野田ではこの飢饉において食料と医薬を提供する御救いを行い、近隣の村落以外からも御救いを求めて多くの人々が来訪しました。来訪して御救いを受けるも亡くなってしまった方を弔うため、天保9年(1838年)に高さ約2.1メートルの墓石が建立されました。

令和5年に野田市の『有形文化財(歴史資料)』に指定されました。

④高梨氏救菑記

1 所有者等名称・住所 公益財団法人高梨本家 上花輪歴史館 館長 高梨兵左衛門
千葉県野田市上花輪507番地 (04-7122-2070)
(月・火曜日休館、8月・12月中旬から2月長期休館)

2 管理者等名称・住所 同上

3 種別 有形文化財(歴史資料)

4 名称(よみ)及び員数

高梨氏救菑記(たかなししきゅうしき) 1基

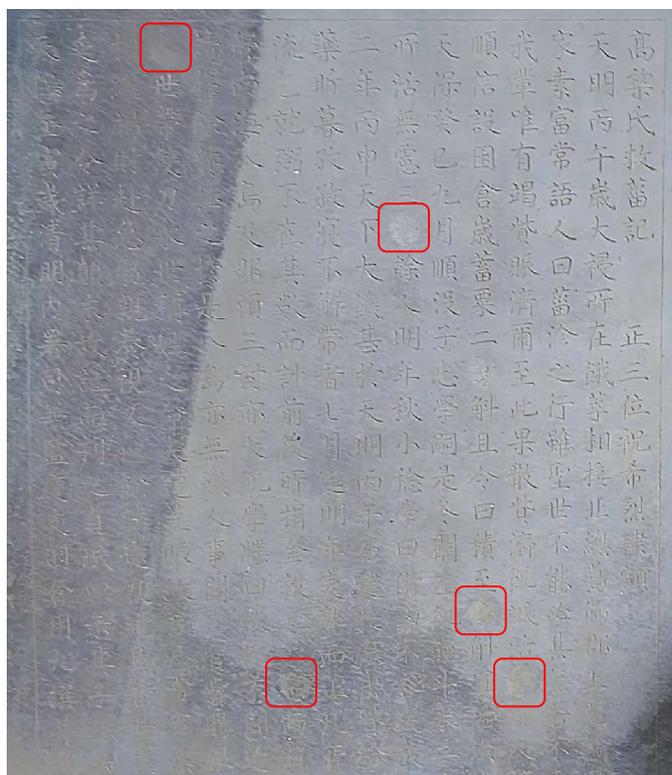
指定名称の「菑」の読みは「し」或いは「さい」だが、高梨兵左衛門家では代々「きゅうしき」と呼称してきたため、名称の読みは「たかなししきゅうしき」とする。

5 所在地 千葉県野田市上花輪507番地

6 物質及び法量

石(根府川石)、高110cm 横86cm 奥12~30cm

7 現状(写真添付)



↑ 覆屋が設置されている

↑ 碑文の一部が削り取られている

高梨氏救菑記は、天保の飢饉において御救いを敢行した代々の高梨兵左衛門の功績を記し

た石碑で、天保13年（1842年）に建立され高さは110センチメートル、幅は86センチメートルあります。

石碑に刻まれている撰文は納戸頭兼勘定吟味役羽倉用九（はくらもろちか）によるものです。羽倉は天明の飢饉時には上花輪村の代官を務めており、飢饉の際に高梨兵左衛門から御救い実行の願いを許可するなど高梨家による御救いを知る人物です。高梨氏救菑記には、高梨家における救恤精神の構築からはじまり、天保の飢饉での御救いの様相、その功績への賞賛が刻まれています。

令和5年に野田市の『有形文化財（歴史資料）』に指定されました。